

## びっくあっぷブック一覧

年度	放送月	書名	著者	出版社	出版年	内容	請求記号
平成21年度	4月	<a href="#">としょかんライオン</a>	ミシェル・ヌードセン	岩崎書店	2007.4	ある日町の図書館にライオンが入ってきました。人びとは大あわて。	Z933.7
	5月	<a href="#">えっ、わたしが裁判員？</a>	愛知総合法律事務所	第一法規	2008.10	突然届いた裁判員の「候補者名簿登載通知」。楽しく裁判員裁判がわかる本。	327.67
	6月	<a href="#">落語的ニッポンのすすめ</a>	桂 文珍	新潮社	2007.9	人間の持つ優しさ、おかし味、楽しさを高座のマクラのように語って聞かせる。	779.13
	7月	<a href="#">宇宙においでよ！</a>	野口 聡一	講談社	2008.6	「宇宙ステーション」は地球から見えるんです。」イラストいっぱい楽しさ宇宙ー	Z538.9
	9月	<a href="#">ニッポン・ビューティ</a>	白江 亜古	講談社	2009.4	「アラウンド80」の底力満載。日本を代表する各界の一流の女たち20人が語る。	281.04
	11月	<a href="#">クラゲ館長最後の釣り語り</a>	村上 龍男	東北出版企画	2009.3	自称「元祖釣りバカ男」の館長が語る楽しい釣りの逸話集。	YK787.1
	12月	<a href="#">人間の条件</a>	五味川純平	岩崎書店	2005.1	戦争という極限状況の中で、主人公が人間としての生き方を試される。	913.6
	1月	<a href="#">だんごどこいしょ</a>	大川 悦生	ポプラ社	1975	幼い子のために、うんと現代的で楽しい民話を作者が作った。原作あり。	Z913.8
3月	<a href="#">少年譜</a>	伊集院 静	文藝春秋	2009.2	人生の喜びと厳しさを活写する少年小説集。	913.6	

# ぴっくあっぷブック一覧

年度	放送月	書名	著者	出版社	出版年	内容	請求記号
平成22年度	4月	<a href="#">イソップ株式会社</a>	井上ひさし	中央公論新社	2005.5	海外出張中の父から毎日届く「ひとつのお話」の手紙。その手紙の秘密は。	YZ913.8
		<a href="#">ころころ</a>	畠中 恵	新潮社	2009.9	江戸時代あやかしの物語、ファンタジーとミステリと両方楽しみたい方へ。	913.6
		<a href="#">きのうの世界</a>	恩田 陸	講談社	2008.9	舞台は現代。SFに近いミステリアスな本、摩訶不思議な世界を読んでみて。	913.6
	5月	<a href="#">空が香る</a>	三宮麻由子	文芸春秋	2010.1	全盲の著者が季節を感じるその感じ取り方はどんなふうか	914.6
		<a href="#">ニッポンの二十四節気・七十二候</a>	環境デザイン研究所	誠文堂新光社	2008.1	写真で見る「七十二候の紅花菜」「二十四節気から芒種」など季節の目安を目で確認できる	449.34
		<a href="#">文科系のための暦読本</a>	上田 雄	彩流社	2009.6	科学的な要素を難しくなく読みやすく説明。	449.3
	6月	<a href="#">私を劇的に変えた日本の美風</a>	呉 善花	李白社	2010.3	「おかげさまで」の言葉の持つ、相手に対する思いやり。韓国人の著者が見た日本の美風とは。	361.5
		<a href="#">星野リゾートの事件簿</a>	中沢 康彦	日経BP社	2009.6	自分の働く会社が破綻の瀬戸際まできたら、あなたは何を考え、どんな行動をするか、できるか。	689.8
		<a href="#">れんげ野原のまんなかで</a>	森谷 明子	東京創元社	2005.2	町外れにぽつんと立つ図書館。まいた種がれんげ野原になる頃に、どんな話が生まれてきたのでしょうか。	913.6
	7月	<a href="#">食堂かたつむり</a>	小川 糸	ポプラ社	2008.1	山形県出身の著者。ベストセラーとなり、映画にもなった。本を書く人ということで紹介する。	Y913.6
		<a href="#">編集者という病い</a>	見城 徹	太田出版	2007.3	本を出す職業としての、出版人。ベストセラーになる本を何冊も世に出した伝説の編集者の想いとは。	021.43
		<a href="#">つづきの図書館</a>	柏葉 幸子	講談社	2010.1	童話の主人公が自分の本を読んだ子どもの中で気がかりだった子どものその後を知りたくて、本から抜け出て来ます。。。	Z913.8
	8月	<a href="#">寿司屋のかみさんはじめての寿司教室</a>	佐川 芳枝	青春出版社	2007.12	カルチャースクールで、教えていた著者が寿司の作り方と、そこで起こった出来事を紹介したユニークな本。	596.21
		<a href="#">しあわせ食堂</a>	武内ヒロクニ	光人社	2009.11	著名人の食べ物にまつわる思い出をあつめた本。絵（イラスト）の面白さも一緒にご覧あれ。	596.04
	10月	<a href="#">米沢藩刊行の救荒書『かてもの』をたずねる</a>	高垣 順子	歴史春秋出版	2010.1	200年前から郷土に伝わる「かてもの」について書かれた本。現在食している山野草もあり、楽しく読める。	YK611.39
		<a href="#">乳のごとき故郷</a>	藤沢 周平	文芸春秋	2010.4	ふるさととは楽しい思い出だけでなく、身をよじるような記憶とともによみがえるといった著者の言葉が見にしみる。	Y914.6
		<a href="#">ままたろう？えほん、よんで！</a>	あまんきみこ	あかね書房	2004.1	記念講演の作家つちだよしはるさんを紹介する絵本として。	YZ913.8
	11月	<a href="#">金賞よりも大切なこと</a>	山崎 正彦	スタイルノート	2009.1	吹奏楽の常勝高、彼らが「ノール」で勝ち続けるためにどんな生活を送っているのか。	764.6
		<a href="#">モノ書きピアニストはお尻が痛い</a>	青柳いづみこ	文芸春秋	2008.11	本人が物書きピアニスト。音楽の知識とともに瀟洒な文体もお楽しみを。	760.4
		<a href="#">おやすみラフマニノフ</a>	中山 七里	宝島社	2010.1	オーケストラに詳しくない人も、小説として楽しめる。ピアノ協奏曲第2番の曲を知っていたらそれ以上に。	913.6
	2月	<a href="#">小惑星探査機はやぶさの大冒険</a>	山根 一真	マガジンハウス	2010.7	「はやぶさ」に携わった人たちがどんな思いで研究・開発にあたったのか。仕事を面白いとして難題を解決してきた人たちとは。	538.9
		<a href="#">虹色の皿</a>	拓末 司	角川書店	2010.11	料理人を目指す若者が抱く様々な感情を色で章立てする。喜びや挫折を経験し、一つの皿に集約されたとき。	913.6
		<a href="#">しあわせな仕事の見つけ方、つくり方</a>	久米 信行	ワニ・プラス	2010.12	道は1本だけじゃない。楽しく仕事をするために、様々な工夫や努力をしてきた7人の先輩の体験談。	366.29

# ぴっくあっぷブック一覧

年度	放送月	書名	著者	出版社	出版年	内容	請求記号
平成23年度	5月	<a href="#">滅びの花園</a>	赤川 次郎	小学館	2010.10	小川糸と荒井良二、山形出身の二人が作った本。彼女の書くおいしいお話は楽しく読めます。	913.6
		<a href="#">まどれーぬちゃんとまほうのおかし</a>	小川 糸	岩波書店	2010.1	ミヒャエルエンデの「はてしない物語」のつづきの本。ローマ帝国の暴君ネロは知っていたけれど。	YZ913.8
	6月	<a href="#">おさがしの本は</a>	門井 慶喜	光文社	2009.7	レファレンスカウンターに勤務する図書館員が存続の危機に際した職場でがんばります。	913.6
		<a href="#">晴れた日は図書館へいこう</a>	緑川 聖司	小峰書店	2003.10	小学5年の図書館大好き少女しおりが主人公。図書館ってどんなところと、さりげない利用案内書にもなっています。	Z913.8
	7月	<a href="#">白の祝宴</a>	森谷 明子	東京創元社	2011.3	平安時代中宮彰子の出産の場面を中心に、今に伝えられる紫式部日記の行間を推理絵巻としてなぞっていく、物語の生き残り方を書いた小説と著者が言う。	913.6
		<a href="#">三毛猫ホームズの文楽夜断</a>	赤川 次郎	角川書店	2010.1	江戸時代から続く伝統芸能文楽を継いでいる人との対談をベースにした本。	777.1
	8月	<a href="#">仏の発見</a>	五木 寛之	平凡社	2011.2	「お盆で休む」など私たちの日常に溶け込んでいる仏教の言葉。難しい言い回しの本でなく、対談者梅原猛と語る二人の世界が面白い。	180.4
		<a href="#">この言葉を忘れない</a>	「この言葉を忘れない」編集グループ	徳間書店	2011.4	震災の後、1ヶ月の間に語られた言葉が本になった。これからどのように生きるのか「日本人としての覚悟を」考え始めた震災地の子どもたち。	369.31
	9月	<a href="#">気がつけばドッキョロージン</a>	澁澤 幸子	じゃこめてい出版	2010.1	著者はこれまでの何十年もの一人暮らしを続け、自分が思うままに生きてきたしゃきしゃきした人。	367.75
		<a href="#">その日まで</a>	吉永 南央	文藝春秋	2011.5	紅雲町という架空の町に住む杉浦草さんが主人公。小さなお店小蔵屋に集う人のお話は。	913.6
	10月	<a href="#">かの矢かの歌</a>	勝島 矩子	自費出版	2011.3	山形で小児科医を長くしてきた著者が自費出版した本。一人の個人史といいながら多くのことを心に残す本。	YK289
	11月	<a href="#">心星ひとつ</a>	高田 郁	角川春樹事務所	2011.8	みをつくし料理帖の6冊目。料理は人を幸せにするという文庫の帯に付いた言葉。そして料理に付いた名前の粋なこと。巻末のレシピもお買い得。	913.6
		<a href="#">最後の晚餐</a>	宇田川 悟	晶文社	2011.8	食に関して又違ったおいしさが書かれた本。人生の最後に食べたいものはがテーマの対談集、あの人が意外なものをとびっくりも。	596.04
	12月	<a href="#">時に海を見よ</a>	渡辺 憲司	双葉社	2011.6	3月11日の震災の日、卒業式が中止になった高校の校長先生が、その後今の若者に送る言葉として卒業メッセージとともにまとめた。教育とは教え、育てるという原点を痛感する。	159.7
		<a href="#">みんなの日本語事典</a>	中山 緑朗	明治書院	2009.6	耳障りな言葉で不愉快になったことはありませんか。疑問に思う様々なことが手を打ちたくなくなるような爽快な回答とともに。	810.4
		<a href="#">敬語のお辞典</a>	坂本 達	三省堂	2009.8		815.8
	1月	<a href="#">りゅうの目のなみだ</a>	浜田 廣介	集英社	2005.11	ひろすけ童話として知られたお話。優しい思いやりで竜を改心させるという味わい深い本ではあるが、優しくしみじみと伝わる言葉の語尾の使い方を見てほしい。	YZ913.8
		<a href="#">てんりゅう</a>	しろたのぼる	岩崎書店	1975	創作童話。リズムカルな言葉の流れと迫力のある絵。	Z913.8
		<a href="#">竜</a>	今江 祥智	BL出版	2004.2	同じ竜を題材にしても、こんなに話が違ってくる。伝説の生きものとして恐れられる竜、貴方だけの竜の本を探してみてください。	Z913.8
		<a href="#">たつのこたろう</a>	松谷みよ子	講談社	2010.8		Z913.8